



[2013年 Vol.37]



「港の元気は福井の元気」「地元の貨物は地元の港から」

敦賀港定期コンテナ航路(中国(新規)・韓国航路) 就航歓迎式典が開催されました!

平成24年11月9日(金)、敦賀港(鞠山南地区) 国際物流ターミナル岸壁において、敦賀港定期コンテナ航路(中国(新規)・韓国航路) 就航を記念した式典が開催されました。歓迎式典では、冒頭に西川福井県知事が「中国・韓国との利便性が向上することで新しい輸送需要を掘り起こすことができるものと考えており、暮らしの経済循環に繋がっていくものとおおいに期待しております」と挨拶があり、続いて河瀬敦賀市長から「1600年前から国際港としての役割を果たしてきた敦賀の港として、もっともっと活用して頂くことが重要であると認識しながら、敦賀市として、また敦賀港国際ターミナル(株)として頑張っていきたい」と挨拶され、最後に汎州海運(株)の李相福社長から「この新規航路がお客様の物流を助け、地域経済に寄与できると確信している」と挨拶がありました。

新規航路は、汎州海運(株)により敦賀港に週1便で寄港すること、国際航路が4便から5便に増加しました。また、企業のニーズが高く、県にとって悲願であった中国航路が6年ぶりに復活したことで、益々の貨物量増加が期待されます。



記念品の贈呈



西川福井県知事の挨拶



荷役の様子



河瀬敦賀市長の挨拶



コンテナ船「イースタン・エクスプレス」840TEU型



汎州海運(株) 李相福社長の挨拶

目次

- 敦賀港定期コンテナ航路歓迎式典が開催されました! P1
- 福井県総合防災訓練が実施されました!
● テロ対策合同訓練が実施されました!
● 赤煉瓦ネットワーク敦賀大会が開催されました! P2
- 敦賀港にて「みなとふれあい教室」を開催!
● 敦賀港にて「みなと学習と消波ブロックアート」を開催!
● おおいみんびあフェスタ2012が開催されました! P3
- 平成24年コンテナ取扱貨物量過去最高を記録!
● 敦賀港(鞠山北地区)防波堤が復旧しました!
● 経済危機対応・地域活性化予備費により、敦賀港及び福井港海岸の事業推進! P4

福井県総合防災訓練・緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練が実施されました！



火災消火訓練（防災船による火災消火のための一斉放水）



水難救助訓練



倒壊建物救助訓練

平成24年11月9日（土）、10日（日）に、大規模な地震と津波を想定した「福井県総合防災訓練」が、テクノポート福井を主会場に行われました。同訓練は、「緊急消防援助隊中部ブロック合同訓練」も兼ねており、福井県、福井市、坂井市、自衛隊、海上保安庁、警察、消防など、2日間で約150機関2500人が参加しました。

訓練は、福井市、坂井市で震度7の地震を観測し、沿岸部に津波警報が出され最大8mの津波が押し寄せ家屋に甚大な被害が発生したという想定で行われました。

福井港では、巡視艇が津波襲来を警告し、避難を誘導することで港内の船舶を安全に沖へ避難させる津波避難訓練を実施し、また福井港の船艇が流出油の拡散をオイルフェンスを展開することで防除する流出油防除訓練などが実施されました。

そのほかの場所では、9小中校・幼稚園が、高台や屋上など高い場所への避難を行う津波避難訓練や、テクノポート福井企業協議会の加盟社が実施した情報伝達訓練や高台への避難訓練などが行われ、東日本大震災を教訓に、広域的な防災体制の充実強化を図りました。

テロ対策合同訓練が実施されました！



テロリスト制圧訓練



化学テロ対処訓練

福井港（10月30日）、敦賀港（11月1日）、内浦港（11月19日）において、県警、海上保安部、消防、入国管理局、税関などが参加して、テロ対策合同訓練が行われました。

敦賀港では、客船船長から武装した外国人数名が乗船しているとの118番通報があったとの想定で始まり、桜岸壁に現地対策本部を設置し、巡視艇、警備艇を出港させ、客船の入港警戒を実施しました。また海上保安部、警察合同検査班による船内検索。負傷者の緊急搬送。海に飛び込んだテロリストを巡視艇、警備艇、機動艇で包囲して投降させ、また下船客にまぎれて逃亡を図ったテロリストを制圧・連行。さらに生物化学テロ対応として、不審な容器の入ったかばんの搬送処理などを実施しました。

福井港、内浦港においても、独自の想定の中、様々な訓練が実施され、関係機関の連携の強化や対応状況の確認が行われました。

赤煉瓦ネットワーク2012敦賀大会が開催されました！

設立1991年10月、会員18団体（約1100名）



パネルディスカッションの様子

平成24年11月24日（土）敦賀港内のきらめきみなと館において、地域固有の歴史建造物である「赤レンガ倉庫」を敦賀のまちづくりの拠点とするべく、市民の立場で活用策を検討、協議するため「赤煉瓦ネットワーク2012敦賀大会」が開催されました。

本大会では、冒頭に河瀬敦賀市長が「敦賀の赤レンガは市民の宝物であり、それを末永く残していこうという思いは皆様と同じであり、連携をとって更なる発展につなげていきたい」と挨拶があり、続いて有馬敦賀商工会議所会頭から「交通の要衝として発展してきた敦賀の港の象徴が1905年に建造された赤レンガ倉庫などであり、今年が敦賀―長浜間鉄道開通130周年、敦賀―ウラジオストク定期航路110周年、欧亜国際連絡列車運行100周年といった敦賀の鉄道と港の歴史にとりて記念すべき年での開催となった」と挨拶され、最後に池田実行委員長から開会の辞が述べられました。

次に、「赤レンガをとりまく歴史的背景」と題して川村敦賀市博物館長より鉄道と港により発展してきた敦賀についてなどの講演があり、続いて「敦賀ノスタルジアムと赤煉瓦倉庫再生」と題して内村敦賀市金ヶ崎周辺整備構想策定委員会副会長より赤レンガ倉庫の再生として金ヶ崎緑地との融合についてなどの講演が行われました。

その後、市内の経済団体や高校生らがパネリストを務めた討論会が行われ、「倉庫単体でなく周辺の整備が大事」、「観光客だけではなく、市民が訪れたいと思うような空間にすべき」などの提案が出されました。

敦賀港にて「みなとふれあい教室」を開催！



ターミナル内で講話を聞く児童たち



鯛の稚魚を放流している様子

平成24年10月15日（月）、敦賀港のフェリーターミナル及び親水護岸フェリオスにおいて、敦賀西小学校の5年生49名が、港の役割や「海・港」への親しみ・興味・関心を高めてもらうことを目的に「みなとふれあい教室」と題し、フェリー見学、講話及び稚魚放流を体験しました。

当日は、今年6月に就航したばかりの新型フェリー船内において、客室や普段は入れない操舵室等を見学し、その豪華さや大きさに感動した様子でした。

次にターミナル内にて、寺田新日本海フェリー敦賀支店長、濱上敦賀市漁業協同組合長、松本所長の講話が行われ、松本所長からは「港が生活にとって重要な役割を果たしていることやいつまでも綺麗な海を大切にしたい」との講話を行いました。

その後、敦賀湾で育った鯛の稚魚500匹を小学生が網とバケツを使用し、元気が良くてなかなか捕らえられない稚魚に苦戦しながらも、楽しそうに稚魚の放流を行いました。

敦賀港にて「みなと学習と消波ブロックアート」を開催！



敦賀港の役割についての講話



消波ブロックアートの全体風景

平成24年10月16日（火）、敦賀港川崎松栄地区の消波ブロック製作ヤードにおいて、敦賀西小学校の4年生50名と特別支援学級の9名が、港と防波堤の役割と関わりなどを学習してもらうことを目的に、みなとについての講話や消波ブロックアートを行いました。

当日は、秋晴れの中、杉浦保全課長より敦賀港の役割についての講話を行った後、事前に画用紙に描いた絵をもとに下絵された消波ブロックにペンキで色を入れました。

小学生達からは、「室内で画用紙に描くのと違って、屋外で大きな消波ブロックの側面に描くことができて楽しかった」という意見や『この消波ブロックはこの後どうなるのか』という質問が相次ぎました。

この消波ブロックは11月初旬から始まる鞠山防波堤への消波ブロックの据付作業までの間、ブロックヤードにて飾られました。

おおいうみんぴあフェスタ2012が開催されました！



おおい町マスコットキャラクター「うみりん」とのふれ合い



若狭牛の地元特産品の直売



0-1グランプリ 販売部門及び制作部門第1位の弁当



賑わっている会場の様子

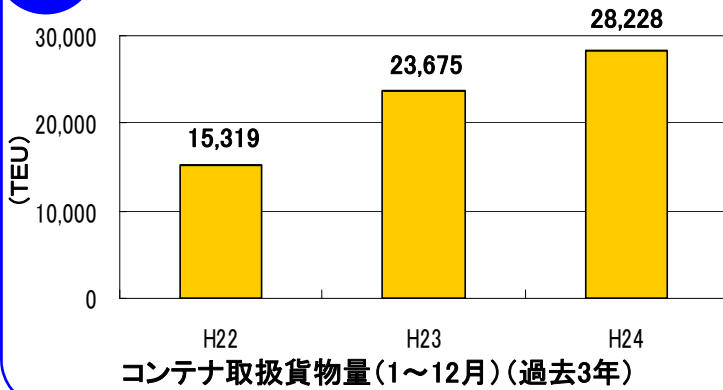
平成24年11月10日（土）、11日（日）に、「うみんぴあ大飯」でうみんぴあフェスタ2012が開催されました。同会場では2回目の開催となるこのイベントでは、町の味を詰め込んだお弁当を募集する「0-1グランプリ」が新たに開催されたほか、カニ鍋のふるまいや、魚介類、キノコ、若狭牛など地元特産品の直売などが行われ、2日間で5千人の来場者を集めました。

このほかにも、キャラクターショーやお笑い芸人のライブ、各種ステージショー、こども家族館の企画などが開催され、盛りだくさんの内容で会場は賑わいました。

「うみんぴあ大飯」は、平成23年にみなとオアシスに認定されており、県内では敦賀港に次いで2例目となっております。

平成24年コンテナ取扱貨物量過去最高を記録！

Information



2012年の敦賀港の国際コンテナ取扱貨物量(実入り)が、前年比19.2%増の2万8228TEU(1TEUは20フィートコンテナ1個分)となり過去最高記録を3年連続で更新しました。内訳は、輸出が前年比12.1%増の1万1871TEU、輸入が同25.0%増の1万6357TEUでした。これは、輸出では韓国への液晶ガラス、北米への繊維製品、輸入では東南アジアからの繊維原料材、中国からの住宅資材、韓国からの飲料水や鋳物製品などが増加したことが主な要因です。

10月26日 敦賀港(鞠山北地区)防波堤が復旧しました！



平成24年4月3日から4日にかけて、日本海で急速に発達した低気圧に伴い、福井県沿岸で高波浪が発生したことにより、敦賀港(鞠山北地区)防波堤の先端付近のケーソン1函が港内側に約15m滑動するとともに、捨石マウンドが散乱する被害を受けました。

被災を受けたケーソンは、縦15m、横9.6m、高さ16m、重さ約3千トンのコンクリート構造物です。この防波堤は、敦賀港の第一線防波堤であることから、港内の静穏度を早急に回復し、港湾を利用する船舶等の安全・安心を確保するため、昨年中の復旧完了を目指し施工してきましたが、10月26日に滑落していたケーソンの再据付が完了しました。

経済危機対応・地域活性化予備費により、敦賀港及び福井港海岸の事業推進！



国土交通省は、11月30日に平成24年度の「経済危機対応・地域活性化予備費」を使用し、大規模災害に備えた防災・減災対策として港湾、海岸等の緊急対策、事業の推進などに経費を計上しました。

その予備費により、敦賀港では鞠山北地区の防波堤先端基礎45mの延長、福井港海岸では離岸堤5基目及び離岸堤(潜堤)の消波ブロック製作等を実施します。(施工場所は、敦賀港及び福井港海岸の航空写真に記載)

敦賀港では、これまでの冬期風浪に加え、平成24年4月に大型低気圧が来襲し、消波ブロックの沈下等が確認されました。そのため、早急に防波堤整備を推進することで防波堤の安定性、港内静穏度の向上を図ります。

福井港海岸では、日本海特有の冬季波浪や侵食の進行によって、消波ブロックの飛散や護岸背後の陥没といった被害が離岸堤(潜堤)の未整備区間で多発しています。そのため、早急な離岸堤(潜堤)整備の推進により、このような被害から護岸の施設を安定的に防護します。

From Editors

●発行 国土交通省 北陸地方整備局 敦賀港湾事務所

所長・副所長(事務)・総務課・品質管理課
工務課・保全課・沿岸防災対策室
〒914-0065 福井県敦賀市松栄町2丁目4-3
TEL:0770-22-2590 FAX:0770-21-8101

福井分室 副所長(技術)・海岸課
〒913-0037 福井県坂井市三国町黒目24字32
TEL:0776-82-1125 FAX:0776-81-7003

敦賀港湾事務所HP <http://www.tsuruga.pa.hrr.mlit.go.jp>
北陸地方整備局 港湾空港部HP <http://www.pa.hrr.mlit.go.jp>

「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル
大いに 良くなれ みなと

0120-497-370

※海やみなとに関するご意見、ご感想をお寄せください。
2013.2